

令和3年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

「児童のインフルエンサー就任による
自身及び多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト」

事業報告書

令和4年2月18日

株式会社つくばウェルネスリサーチ

令和3年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「児童のインフルエンサー就任による
自身及び多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト」
事業報告書

目次

内容

1. 本事業の目的.....	3
2. 本事業の実施概要	3
(1) 本事業のターゲット	3
(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	3
(3) 本事業で期待される効果.....	4
3. 本事業の実施内容	4
(1) 事業の実施概要	4
(2) 事業の実施結果	5
4. 本事業の実施体制	11
(1) 事業の実施体制	11
(2) 本事業の実施スキーム	11
5. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）	12
(1) 効果検証方法.....	12
(2) 効果検証の結果	13
6. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）	20
7. 本事業から得られた波及効果.....	20
8. 今後の事業展開予定.....	21
(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題	21
(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画.....	21
(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組	21
9. 終わりに.....	21
参考資料1 アンケート調査票.....	22

1. 本事業の目的

一般に児童期であっても、人がスポーツを開始・継続しないのは、1) リテラシーが低い、2) 興味・意欲がない、3) スポーツへの憧れがない、4) スポーツ実施の満足度が低いなどの要因があげられる。また、日本全国においてこれらを満たせる指導者が格差なく存在しているかという点、これも不十分であると考えられる。

そこで本事業は、埼玉県本庄市立旭小学校1～3年生の児童を対象に、スポーツ実施率向上に貢献するインフルエンサー（キッズ健幸アンバサダー＝KA）を養成することで、以下のアウトカムを目指した。

- ① 学識者とオリンピックが連携して指導者となり、スポーツ好きな児童のみへのアプローチとならないように、自治体（教育委員会）と連携し、授業の一環として実施することにより、スポーツが苦手な児童にも楽しさを知る機会を提供する。
- ② KA となった児童が、自身のスポーツ実施、及びスポーツに対する興味・関心の変化、スポーツが親や祖父母の健康維持に大きく影響すること、及び KA としてどの程度情報提供を行い、それが届けられた親や祖父母のスポーツ実施、及び休日等での一緒に行うスポーツ実施などのエビデンスを得る。
- ③ 講座の状況を収録し、他校でも教員等が活用できる動画コンテンツを作成し、埼玉県本庄市内の他校、県内、スマートウエルネスシティ（SWC）首長研究会（全国 116 自治体）などへの横展開を図る。

2. 本事業の実施概要

（1）本事業のターゲット

本庄市内の旭小学校における低学年（1～3年生）の児童全員 113 名を対象とした。

また、KA から情報を受ける児童の親「最大 226 人」、児童の祖父母「最大 452 人」もターゲットとした。

（2）ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

小学校低学年のスポーツ実施の課題としては、1) TVゲームやインターネットへの興味が強い、2) 塾など習い事の時間も増加、3) 一緒にスポーツで遊ぶ友達が少ない、4) 親や祖父母と一緒にスポーツを楽しむ機会が少ない、5) スポーツが自分、親及び祖父母の健康にプラスになることのリテラシーが低い 等があげられる。加えて、他の先行研究によると、1) 近所におけるスポーツ実施環境が劣化傾向、2) スポーツの凄さや楽しさを体感しながら伝えられる人材が不足していること、があげられる。

また、成人のスポーツ実施が向上しない課題として、運動無関心層は自ら興味のない情報収集はほとんど行わず、そのためリテラシーや実施意欲が向上しないことが指摘されている（久野他 2010 年）。

これより、児童のスポーツ実施を阻害している要因は多様にみられるが、本事業では特に下記の 3 点の課題に焦点を当てた。

- ・楽しみながらスポーツの力の理解、及び多様な動きを身につけることができる機会を提供できる人材が少ない
- ・保護者が子どもに運動、スポーツを実施させる必要性を感じていない
- ・土日にスポーツを実施しない子どもたちが一定数存在する

そして、これらの課題を解決し、さらに成人のスポーツ実施率向上に波及させるために仮説として以下を位置付けた。

- ① 児童にスポーツができることへの憧れや楽しさを感じてもらうこと
- ② スポーツが生涯にわたっての健康に大きく寄与することへの理解を高めてもらうこと
- ③ KA としての役割を持ち、親や祖父母にスポーツの楽しさや重要性を伝えるプロセス、及びそれに伴って一緒にスポーツを実施する体験が、自身のスポーツ実施、さらには親・祖父母のスポーツ実施率に寄与すること

(3) 本事業で期待される効果

本事業は、児童のスポーツへの関心や実施を高めるだけではなく、親や祖父母世代への波及効果を狙ったものである。さらに、児童からの勧めでスポーツを開始した親や祖父母の中から、その良さを体感し、自分の友人や仕事上の関係者等、多様な人々に口コミによる情報伝播が起り、結果的にスポーツ実施率向上に寄与することが期待される。

3. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

本庄市と連携し、授業の一環として本庄市立旭小学校 1～3 年生を対象に「KA 養成講座」を開催し、スポーツ実施率向上に貢献できるインフルエンサーの養成を行った。

養成講座の実施にあたっては、本事業の狙いを踏まえたカリキュラム開発を講義担当の有識者・オリンピックにて実施し、あわせて、講師紹介の動画コンテンツ・KA として親や祖父母にスポーツ実施を呼びかけるためのチラシ等を制作した。

KA 養成講座は、有識者 2 名とオリンピック 2 名（2008 年北京五輪 陸上男子 4×100m リレー 銀メダル獲得の朝原宜治氏と 2012 年ロンドン五輪女子サッカー銀メダル獲得メンバーの安藤梢氏）により、児童 113 名（小 1:40 人、小 2:40 人、小 3:33 人）を対象に実施した。また、KA としての役割として、講座で得た知識やスポーツの楽しさを親、祖父母等に対して伝え、一緒に運動することを位置づけ、その活動を日記として記録させた。

そして、今後の横展開に向けて、効果検証として KA 就任前後の児童のスポーツ実施率の状況、情報提供の状況（誰に、どのくらい等）、情報提供者のスポーツ実施率等について評価するとともに、本事業をとりまとめた動画コンテンツを制作し、その成果を配信した。

(2) 事業の実施結果

①カリキュラム開発

筑波大久野が中心となり講師 2 名のオリンピックと検討を重ね、児童及び親・祖父母世代のスポーツ実施率の向上につなげることをアウトカムとした以下のカリキュラムを開発した。

表 1. キッズ健幸アンバサダー養成講座のカリキュラム

タイトル		講師	内容	狙い
講義 15分	健康におけるスポーツの力と KA の使命と役割	久野譜也 筑波大教授	<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉について ・今日学んだことを親や祖父母に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが自分の健康にいかにかプラスになるのか、またスポーツ実施の生涯にわたっての継続が充実した人生につながることを、親や祖父母世代をイメージしながら理解できるようにする。 ・KA は自分の大切な人に心を込めて伝えることが使命と役割であることを実感してもらう。
実技 20分	速く走る秘訣	朝原宣治 NOBY T&F CLUB オリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ○速く走るための姿勢作り ・片足を大きく振る ・脚のつけ根を伸ばす ・1 回転ジャンプ ○手足の動かし方 ・4 つ足歩行 ・スキップ ・足運びのトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業や指導では受けることのできない、トップアスリートの凄さを体感し、憧れを醸成する。
実技 20分	ボールをうまく操ろう	安藤梢 筑波大助教 オリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ○体全体でボールを扱う ・ボールタッチ ・ドリブル ○周りを見て仲間を見つける ・言われた人数で集まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 人のオリンピックでの体験等も交えて実技を進行する。
講義 10分	相手の心に火をつける話し方	塚尾晶子 つくばウエルネスリサーチ 保健師	<ul style="list-style-type: none"> ○会話の時に大切なこと ○KA 活動を KA 日記に記録する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の大切な人がスポーツを一緒に行うためには、まず自分自身がスポーツを習慣的に行うことが重要であること、また相手が行動を変容させるための「相手の心に火を付ける」伝え方を学ぶ。
認定証・記念品授与				<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックから認定証と記念品を授与

②コンテンツの開発

■紹介動画の作成と児童による事前視聴

KA養成講座開催に先立ち、児童の関心とモチベーションを上げるために、講座と講師に関する紹介動画を作成し、児童に事前視聴してもらった。

- ・所要時間：約5分
- ・内容：講師と講座内容の紹介



図1. 児童が事前視聴した紹介動画

■旭小学校教員による講師紹介ポスターの作成と校内掲示

KA養成講座開催前に、講師として来校するオリンピックのこれまでの活動・活躍を紹介するポスターを旭小学校教員が作成し、校内に掲示した。

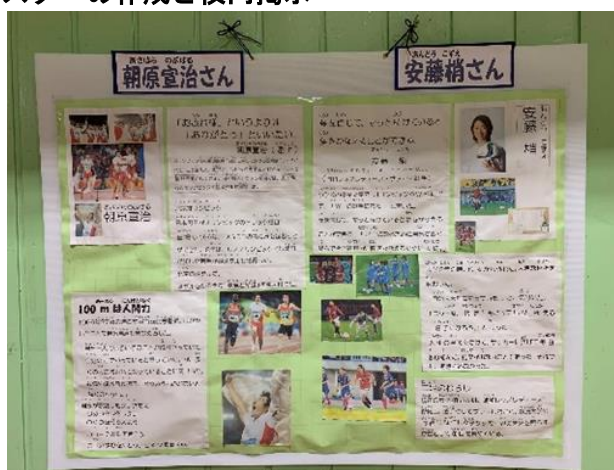


図2. 校内に掲示したポスター

■講座での投影資料および配布資料の作成

講義「健康におけるスポーツの力とKAの使命と役割」および「相手の心に火をつける話し方」の講義用教材として、低学年にもわかりやすく説明するための資料を作成した。

また、KA養成講座受講後、講座で学んだ運動やスポーツの重要性について、児童が親や祖父母に伝え、一緒に運動やスポーツを実施することを呼び掛けるためのツールとして、親向けと祖父母向けの2種類のチラシ（A4・カラー両面）を作成した。

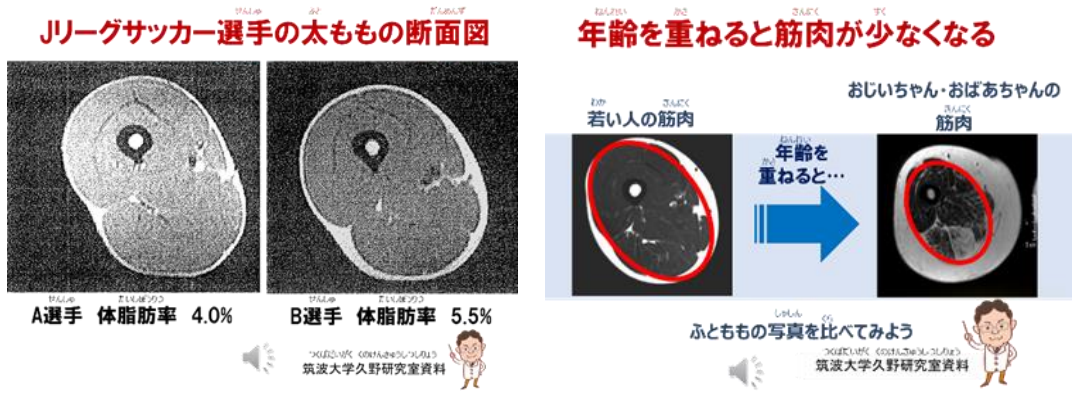


図3. 講義「健康におけるスポーツの力とKAの使命と役割」投影資料の一部

図4. KAの親・祖父母に伝えるためのチラシ

■キッズ健幸アンバサダー日記

キッズ健幸アンバサダー日記は、KA 就任後の役割である、1) 自部自身がスポーツや運動遊びを積極的に行うこと、2) 自分の親や祖母と一緒にスポーツを楽しむこと、3) 親や祖父母に講座で学んだことを伝えること、を記録するために作成した。

また、KA としての目標を立て、運動を実施したらシールを貼り、親・祖父母からも感想を書いてもらうこと等、日常的な会話で取り上げられるように工夫している。



図 5. キッズ健幸アンバサダー日記

③ 「KA 養成講座」の開催

本庄市立旭小学校 1～3 年生を対象に「KA 養成講座」を開催した。授業の一環としてスポーツ嫌いや無関心な児童も含めた全児童が参加した。

受講した児童は本講座を通じて、スポーツの楽しさと生涯の健康維持におけるスポーツの重要性を学び、講義後は、両親や祖父母に学習した内容を伝えるインフルエンサーとなって、一緒にスポーツをする機会の増加につなげる活動を行った。

- ・ 日時：11 月 22 日（月） 1 回目：AM9:20～11:05 / 2 回目：PM1:15～2:55
- ・ 開催場所：本庄市立旭小学校 体育館・校庭
- ・ 対象児童：本庄市立旭小学校の 1～3 年生（113 人）
内訳：1 年生 2 クラス（40 人）・2 年生 2 クラス（40 人）・3 年生 1 クラス（33 人）



筑波大・久野教授による講座「健康におけるスポーツの力とKAの使命と役割」



オリンピック朝原宜治氏による実技講座「速く走る秘訣」



オリンピック安藤梢氏による実技講座「ボールを上手く操ろう」



つくばウエルネスリサーチ・塚尾保健師による講座「相手の心に火をつける話し方」

図 6. KA 養成講座の様子

④ 広報・情報配信

事業の取組・成果を全国に広げるために、講座の当日の状況を収録し、他校で教員が活用できる動画コンテンツを作成し、効果を示すデータとともに、埼玉県本庄市内の他校、県内、申請者が事務局長を務めるスマートウェルネスシティ首長研究会（以下、SWC首長研究会）などへの横展開を図った。

■本庄市長による記者会見でのニュースリリース

2021年10月27日（水）、本庄市の市長定例記者会見でKA養成講座開催に関するニュースリリースを行った。

■KA講座実施に関するプレスリリースの配信

2021年11月17日（水）にプレスリリースを配信し、11月22日のKA養成講座への取材を促した。その結果、NHK埼玉支局から申込みがあり、当日の様子はNHK「首都圏ニュース」、本庄ケーブルテレビ等で取り上げられた。



図7. NHK首都圏ニュースで放映（2021.11.22）

■SWC首長研究会・SWC協議会での情報配信

2021年11月25日に開催されたSWC首長研究会（43都道府県116区市町村の首長が参加）にて、本庄市・吉田市長よりKA養成講座の開催報告を行った。

また、2022年2月15日に135団体・企業が参加するSWC協議会のスポーツ・レガシー分科会で、本事業の取組・成果について筑波大学久野・安藤より発表された。

■他の小学校への将来的展開を踏まえた動画コンテンツの作成

本事業で得られた成果を踏まえ、今後は本庄市内及び県内他校へ、あるいはSWC首長研究会の自治体、全国市長会等への団体等にも積極的に働きかけを行うこととしている。そこで、本講座の様子を収録した内容を編集し、小学校の授業で、現場の教師等で講座を実施できるよう動画コンテンツを制作した。



図8. 本事業を横展開するための動画コンテンツ

4. 本事業の実施体制

(1) 事業の実施体制

本事業はつくばウェルネスリサーチ、本庄市、筑波大学、アシックスのコンソーシアムにより、下図の役割分担で実施した。また、児童向けコンテンツ制作は、NHK教育番組を担当する「NHKエデュケーショナル」が担当した。

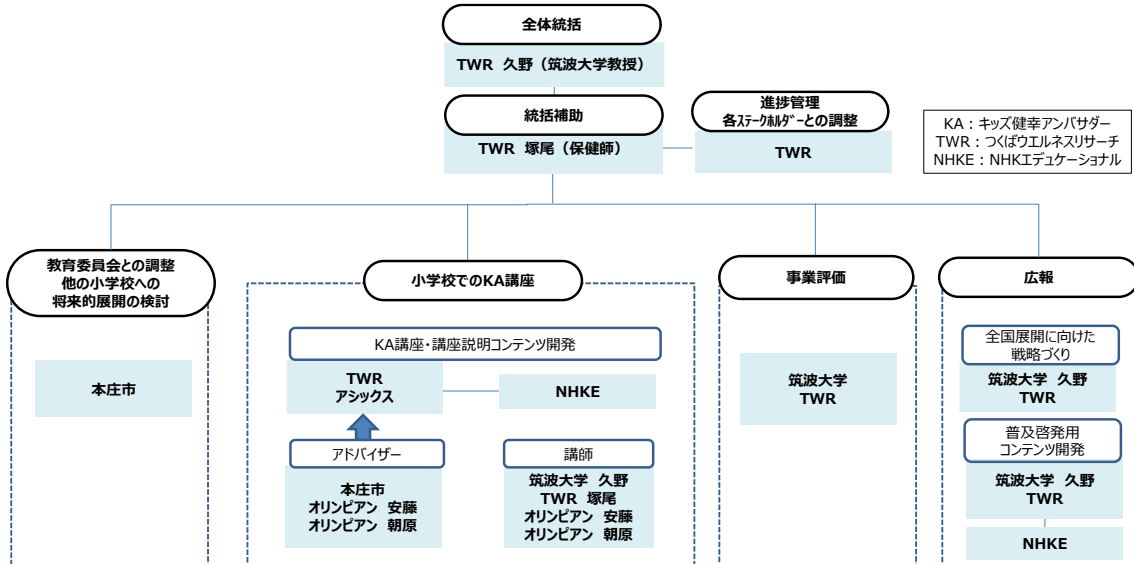


図 9. 実施体制図

(2) 本事業の実施スキーム

本事業のスキームを下図にまとめる。

児童のインフルエンサー就任による自身および多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト

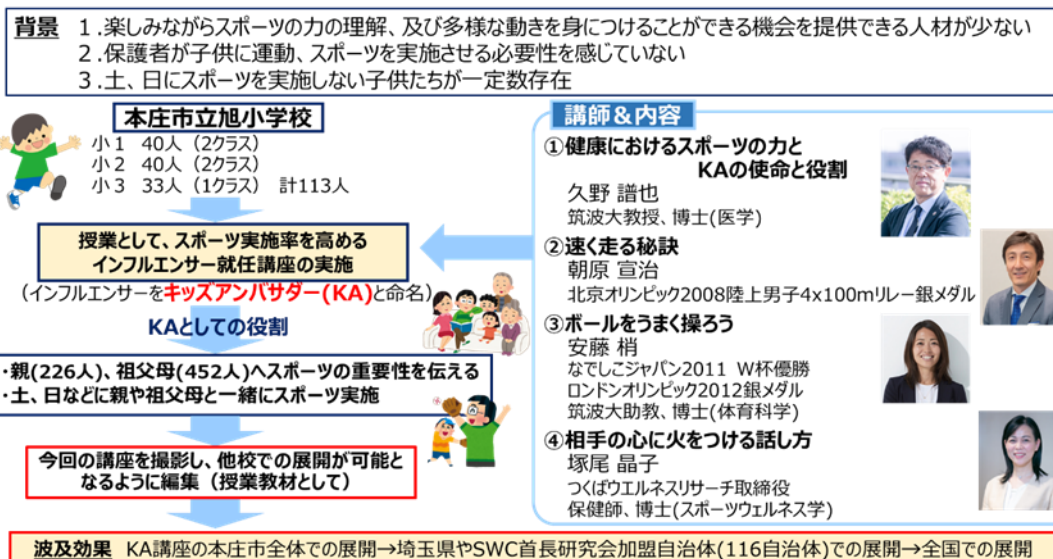


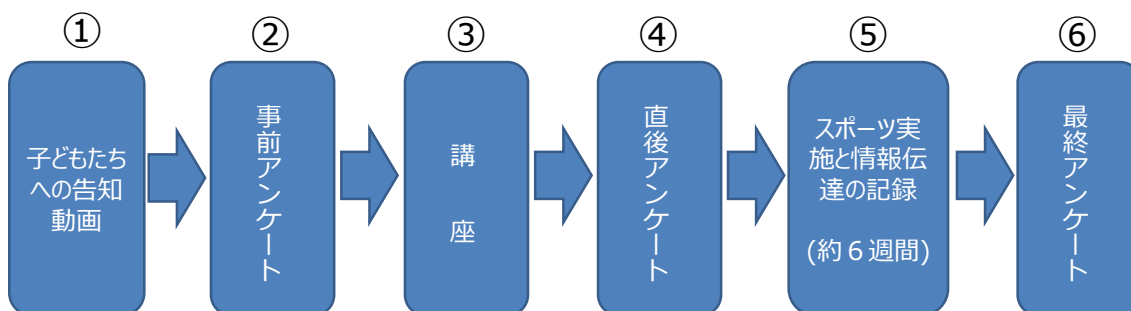
図 10. 実施スキーム

5. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（1）効果検証方法

KA 養成講座の効果を検証するため、評価を事前、講座終了直後、事後（KA の活動 1～2 ヶ月後）の 3 回実施した。また、講座後から約 6 週間、スポーツ実施と KA としての情報伝達実施の記録を記入してもらい、事後調査時に回収した。この記録には、親や祖父母など情報伝達を受けた人からの感想を記載する欄を設けている。

なお、設問内容は、小学校 1～3 年生の低学年児童が理解し正しく回答できるように、旭小学校の教員の協力も得て作成した。調査内容は以下の通りである。



調査時期	主な調査項目
事前アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ実施の状況 ・ スポーツと健康のリテラシーの向上 ・ スポーツ実施への意欲 ・ スポーツへの憧れや楽しさ
直後アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツと健康のリテラシーの向上 ・ KA としての使命と役割
スポーツ実施と情報伝達の記録 (約 6 週間) および 最終アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ実施の状況 ・ KA としての情報伝達状況 ・ 親や祖父母などのスポーツ実施状況 ・ スポーツと健康のリテラシーの向上 ・ スポーツ実施への意欲 ・ スポーツへの憧れや楽しさ ・ KA としての使命と役割

図 11. 評価項目

(2) 効果検証の結果

①児童の運動に対する意識

1) 児童の運動に対する意識

講座前（事前）及び KA の活動後（事後）に実施したアンケートの結果から、児童の運動に対する意識について分析を行った。「運動することは楽しいか」という設問に関して、「楽しい」と回答した児童は講習前で 81% (n=92)、KA 活動後は 87% (n=101) となり、講座前後で有意差がみられた ($p < 0.05$)。

KA の活動後に行った「誰かと一緒に運動することはうれしいか」という設問には、87% (n=100) の児童が「そう思う」と回答し、「これからも運動を続けていきたいと思うか」という設問には、80% (n=92) が「そう思う」と回答した。

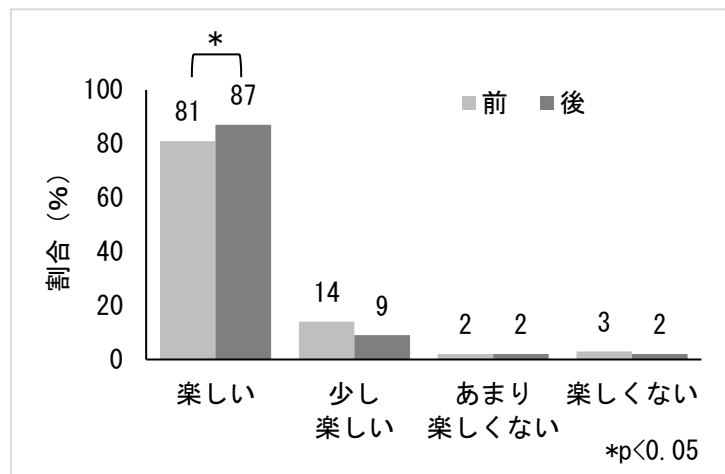


図 12. 運動することは楽しいですか

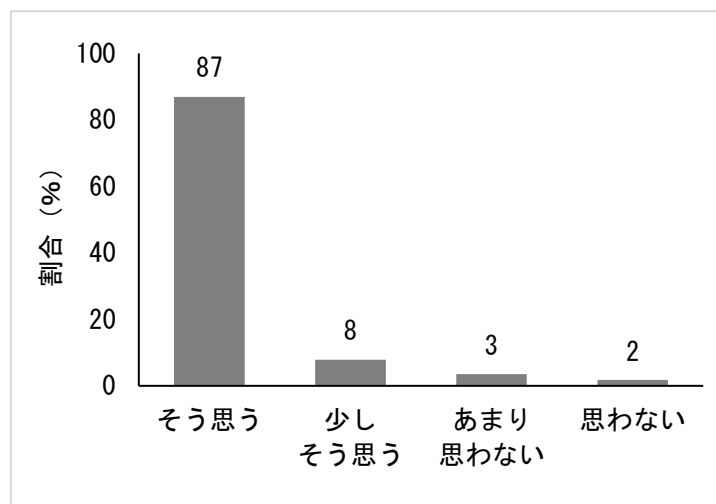


図 13. 誰かと一緒に運動することはうれしいですか

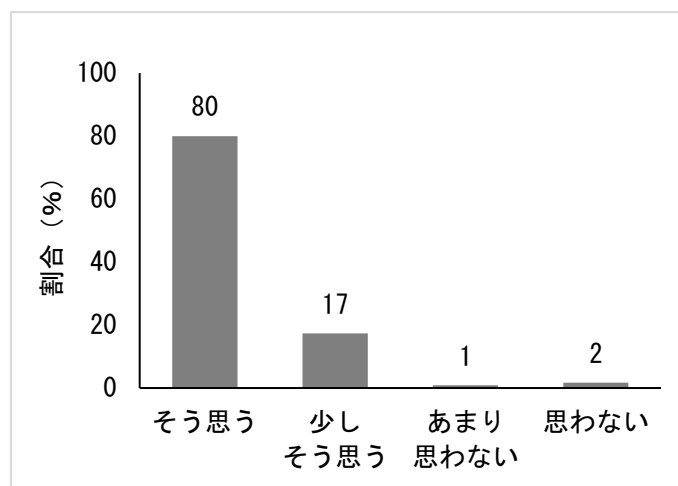


図 14. これからも運動を続けていきたいといますか

2) KA の理解

講座終了直後に実施したアンケートから、KA 講座の達成度について集計を行った。このアンケートは、講座内容の理解や KA の役割の理解などの項目から構成されるが、「相手の心に火をつける話し方」の理解度は 88.3%、その他の項目は 95%以上と、全体的に高い到達度を示していた。また、オリンピックによる実技講座（「速く走る秘訣」、「ボールをうまく操ろう」）に対する理解度はそれぞれ 99.1%、97.3%であった。

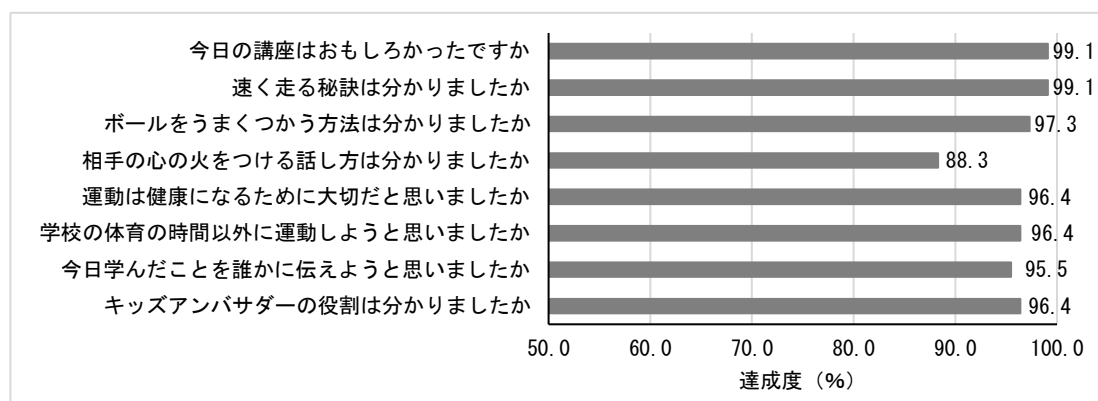


図 15. キッズアンバサダー講座の達成度評価

3) KA の役割の遂行

講座終了直後及び KA の活動後（事後）に実施したアンケートの結果から、児童が KA として遂行した役割について検討を行った。

また、講座前後の運動実施状況や両親・祖父母などによる記録から、KA の役割の遂行が周囲の人々に与えた変化についてまとめる。

講座終了直後、「運動は健康に大切であること」、「一緒に運動したいこと」を誰かに伝えたいと回答した割合はそれぞれ 87% (n=91)、65% (n=70) であった。また、KA の活動を通して「運動は健康に大切であること」、「一緒に運動したいこと」を実際に伝えた児童は、それぞれ 33% (n=23)、58% (n=29) であった。

運動の大切さを伝えるにあたって、親向けと祖父母向けに作成されたチラシを使用した割合は、約 6 割であった。運動の大切さを伝えることについて「うまく出来た」、「少しくましく出来た」と回答した割合は合わせて約 8 割であった。

図 18 は、講座前後の運動実施状況の変化を示している。一緒に運動する人として、「お父さん」「お母さん」と回答した割合は講座後に増加したが、「きょうだい」「おじいちゃん」「おばあちゃん」「友達」「その他」と回答した割合は減少した。

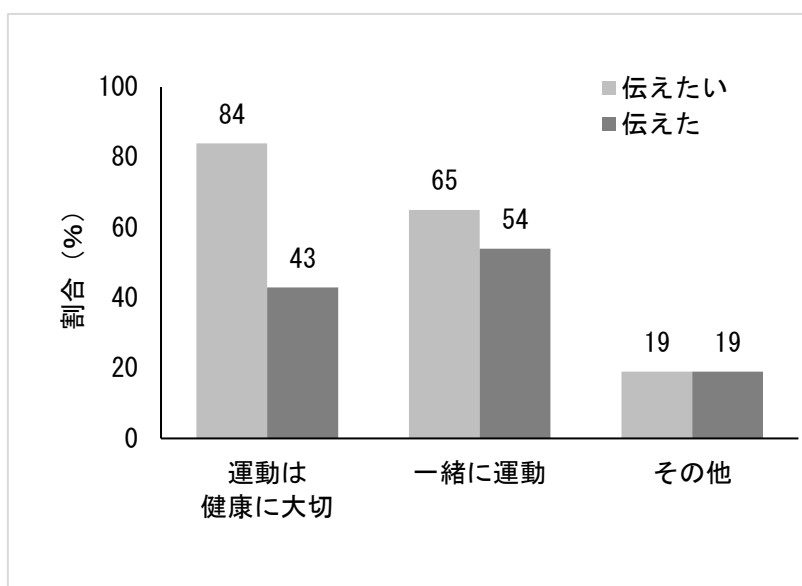


図 16. 誰かに伝えたいこと、事後伝えたこと

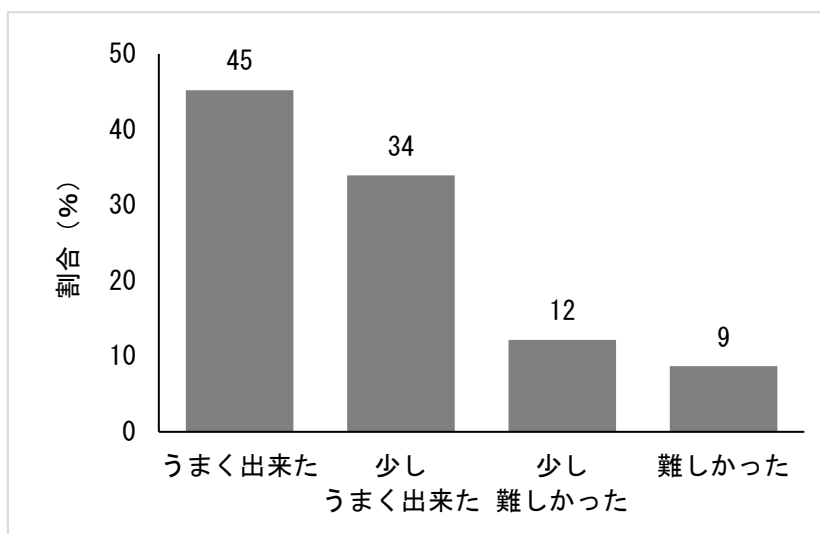


図 17. 運動は健康になるために大切なことを、うまく伝えられたか

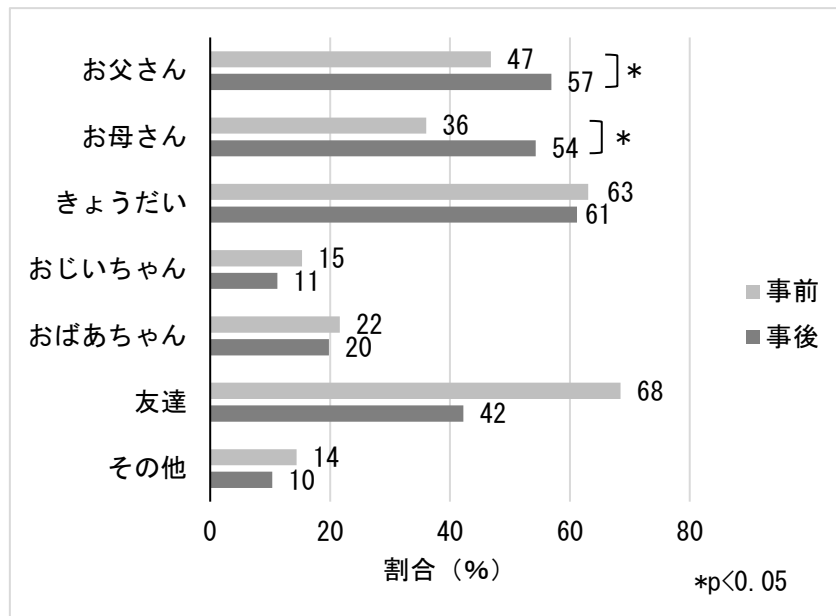
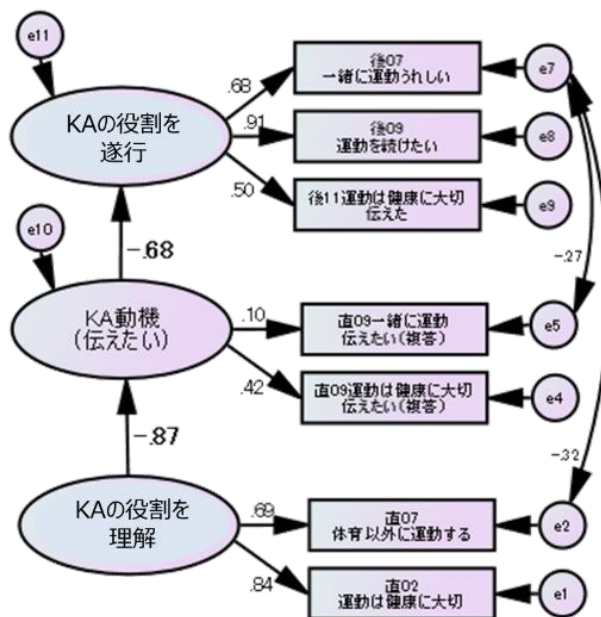


図 18. 誰と一緒に運動をしたか（複数回答）

4) KA 活動効果

探究的因子分析を適用して、KA 活動効果に関する分析を行った。その結果、キッズアンバサダー活動効果に関する KA 理解、KA 動機、KA 役割遂行の 3 因子が抽出された。そして、検証的因子分析を適用した結果、児童が KA の役割を理解することで、KA として運動の大切さを伝えたいという意欲を醸成し、最終的に KA が果たすべき役割を遂行するようになるという相関関係が明らかになった。



GFI=978, AGFI=938, CNI=1.000, NFI=950
 RMSEA=000, AIC=45.929, CHISQ=9.929, p=447, df=10

図 19. キッズアンバサダー効果の因果構造

5) KA 活動による児童・家族の感想

図 20 は、KA 活動期間における家族からのコメントの抜粋である。KA として運動の大切さを伝えた児童の家族からは、「(児童と)一緒に運動したい」「少しでも体を動かしたい」といった運動意欲の向上が伺えるコメントが多数集まった。

■冬休みに運動をしてみた感想

かんそう か
感想を書いてね！
冬休みの最後(さいご)に、運動(うんどう)してみた
あとの感想(かんそう)を書いてね！

よちと遊んだらからだ
がかるくなってよちと
かできたうれしくて、
もっとちがうわざをちるせんして
ちからをいっぱい入れて、
かせをひきにくくして
せいかつががんばりたいとおも

いました。

運動をすると気持ちもよ
くなるし、もとしたくなった。家の
人ではな おじいちゃんやお
ばあちゃんにも、と運動のこを
おしえたいな。これからも運
動をつづけようと思った。

(3年 女子)

■健康情報を伝えた相手からの感想

運動をひ孫と一緒にすることは大変な事
ですが、きねとして、やる位でも、体に
なったりするので、少しも体を動かしたいと思
いで、丈夫な子になります様、がんばってほしいです。(曾祖母)

一生懸命に話をしてくれて運動の大切さを改めて、
気が付かせてくれました。
少しづつになると思いますが一緒に運動をして、健康
的な体作りをしていこうと思いました。(両親)

年ばかりと言っている中で孫に頑張り方を
教えてもらったので毎日スクワット(ゴコゴ)
を積み重ねて健康でいきたいと思います。(祖母)

健康のために身体を動かすことは大切だと感じました。
すぐにつかわれてしまうので、長い時間、一緒に運動
できるように、きをつけておきます。(祖父母)

図 20. 家族からのコメント

② 教員へのアンケート・ヒアリング結果

1) 旭小学校教員へのアンケート結果

教員13名に対して、本事業による児童たちの反応を確認した結果、狙いとしていたキッズアンバサダーの目的を理解し、また、自ら進んで、楽しく参加していると評価されていた。また、教員から見た生徒の様子は、楽しく参加できており、このプログラムを授業実施することには肯定的であった。

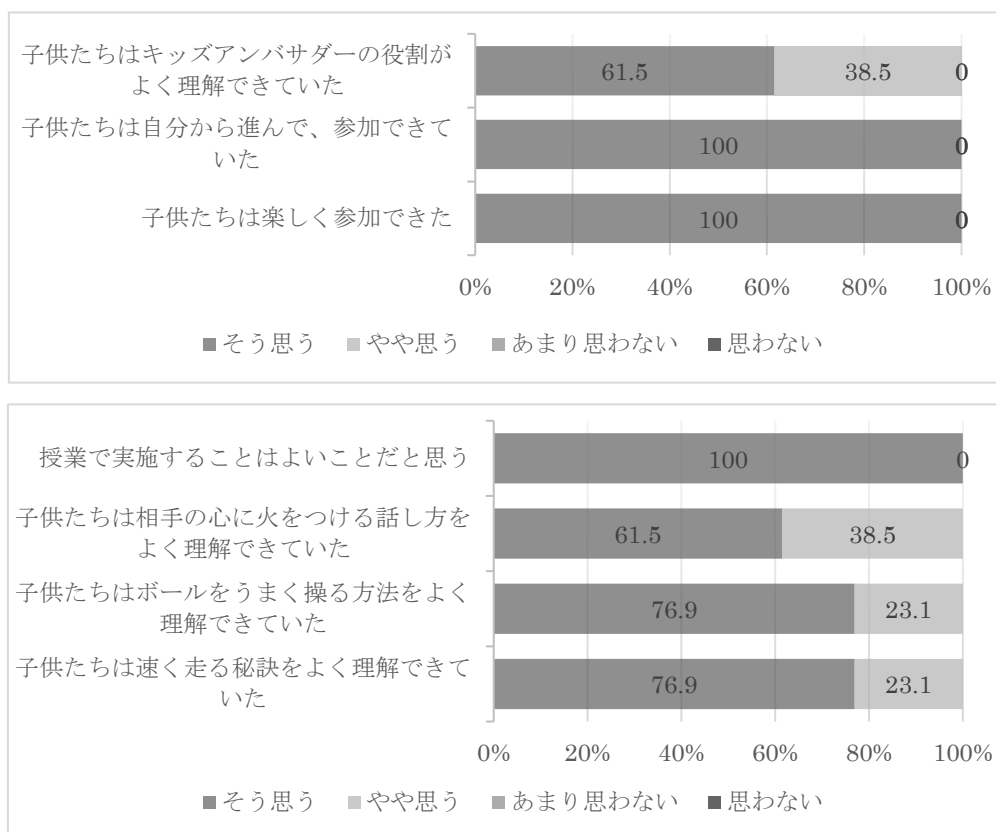


図 21. 旭小学校教員へのアンケート結果

2) 事業に対するインタビュー結果

今後、この事業を横展開するにあたり旭小学校教員および関係者に対してインタビューを行った。

■カリキュラムについて

- ・教員の業務量を削減する流れの中、新規事業を入れることはハードルが高い。よって、導入に向けて、効果へのエビデンスを示すことが重要となる。(旭小学校校長)
- ・低学年に対しては効果的であった、高学年の場合は、親との距離感も低学年とは違ってくるため、家族と一緒に運動に取り組む機会に繋がられる可能性は低くなるように思われる(旭小学校校長)

- ・年間指導計画の「体づくり運動」に組み入れるとすれば、主運動（体育）とどうリンクさせるかが課題である。また、年間行事予定に組み入れる場合、その日程調整が難しい（千葉県内小学校校長）

■プログラム内容について

- ・運動の大切さの話からはじまり、続いて体験、最後にそれをどのように伝えていくか、の全体構成が良い。（旭小学校校長）
- ・講座時、児童たちがとても楽しんでおり、スポーツの楽しさを味わって運動できていた。その結果、家庭で、自分が健幸アンバサダーになって伝えようという意欲を持つことができたのではないかと。（旭小学校校長）
- ・日記がその日だけで終わるのではなく、家庭での意欲づけをするため、シールを貼ったり、両親から感想を書いてもらう等の工夫が非常に良かった。（旭小学校校長）
- ・児童が親や祖父母と一緒に運動するためのメニューをカリキュラムの中に追加すると良い。（旭小学校職員）

■指導者について

- ・今回は、講師の知名度があり、子どもたちとの関わり方も上手であった。ただし、毎回そういった講師であればよいが、そうでなかった場合に子どもたちがあそこまで意欲的になるか課題となる。（旭小学校校長）
- ・オリンピックに限らず、子どもが知っているプロ選手であれば効果的と考える。視覚的にすごいなと思うことがあるとさらに効果が上がるのではないかと。（旭小学校校長）
- ・今後、子どもたちが「おもしろい、楽しい」と感じる指導ができる指導者を確保することが課題となる。（地域スポーツ指導者）
- ・トップアスリートのセカンドキャリアを創出することは素晴らしいが、全てのプログラムをオリンピックに指導してもらうことは、その調整（人の確保や予算的に）が難しい（放課後アフタースクールスタッフ）

6. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

仮説① 児童にスポーツができることへの憧れや楽しさを感じてもらうこと

仮説② スポーツが生涯にわたっての健康に大きく寄与することへの理解を高めてもらうこと

- ・授業の一環として実施することで、スポーツ嫌いの児童にも体験させることができ、その結果として、スポーツが「嫌い」な児童も、運動の契機になることが確認された。
- ・講座の前後で運動が「楽しい」と回答した児童の割合が有意に向上した。加えて、誰かと一緒に運動することへの喜びや継続的に運動する意思をもつ児童が 8 割以上と高い割合を占めた。
- ・有識者の講義・オリンピックによる講座の理解度は 9 割を超えていた。オリンピックから指導を受け、凄さを体感し、憧れを持ってもらうことの重要性が示された。

仮説③ KA としての役割を持ち、親や祖父母にスポーツの楽しさや重要性を伝えるプロセス、及びそれに伴って一緒にスポーツを実施する体験が、自身のスポーツ実施、さらには親・祖父母のスポーツ実施率に寄与すること

- ・KA 講座後に親・祖父母に対して、「運動は健康に大切であること」を 43%が伝え、「一緒に運動を実施」した児童は 54%であった。特に「お父さん」「お母さん」と一緒に運動する割合が増加し、KA 活動の波及効果が明らかとなった。
- ・また、情報伝達を受けた家族からは肯定的なコメントが多く、運動に対する意識が変わったという意見も多くあげられた。
- ・一過性のイベントではなく、KA 役割を理解し、宿題・日記等を通じて、その後の児童たちの活動が継続できるようにしたことが効果的であった。
- ・「KA の役割を理解すること」が、KA の活動の動機に強く影響し、その動機が KA 活動の遂行に強く関係していることが明らかとなった。

7. 本事業から得られた波及効果

本事業そのものが、児童のスポーツへの関心や実施を高めるだけではなく、親や祖父母世代への波及効果を狙ったものである。分析結果から、本事業の実施により、両親と運動する機会が増加していることが確認されている。よって、その先の波及効果として、児童からの勧めでスポーツを開始した親や祖父母の中から、その良さを体感し、自分の友人や仕事上の関係者等、多様な人々に口コミによる情報伝搬が起こり、結果的にスポーツ実施率向上に寄与することが期待できる。

8. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

■首長・教育委員会への理解促進

本事業の概要・成果を情報展開しており、今後も多様なチャンネルで PR していく。また、2022年5月開催のSWC首長研究会（43都道府県116区市町村の首長）に対して説明予定である。

■児童への教育経験が豊富な講師の確保

既に東北から九州まで10自治体以上が来年度に実施する予定であり、また高石市では市内の全小中学校での実施を希望している。これより、来年度だけで40~50回程度の講座開催が想定され、各講座で成果が出せる講師を確保することが必要となる。

■全国で実施するための運営事務局の設置

KA開催にむけた自治体調整、講師調整、コンテンツ制作、評価業務を行う運営事務局の設置が必要となる。

(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

今後の横展開にむけて、本事業では当日の講義の様子を動画コンテンツとして取りまとめて、既にSWC首長研究会（116自治体参加）に配信した。

その結果、既に10自治体（埼玉県本庄市、岩手県滝沢市、潟県見附市、東京都多摩市、静岡県島田市、大阪府高石市、兵庫県西脇市、福岡県飯塚市、鳥取県湯梨浜町、奈良県田原本町など）が来年度にKA養成講座を実施することを計画している。

また、前述した通り、大阪府高石市は市内の小中学校を対象に1000名規模でKAを養成することを企画している。

(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組

現在、10以上の自治体への展開が見えているが、一方で、興味はあるが教育委員会との連携はハードルが高く、「我々の自治体では無理です」という声も複数届いている。それゆえ、本事業の狙い・重要性の認知度を高めていくことが求められ、Sport in Lifeプロジェクトを通じて多様なメディアでPRいただきたい。

9. 終わりに

予想以上の成果を得ることができたと感じている。特に、本事業を自治体の首長に話すと十中八九で実施したいとの声が返ってくる。課題でも示したが、これを全国レベルで実施できる体制（指導者と事務局）づくりを成功させることが、この事業の全国展開、そして、児童・成人・高齢者のスポーツ実施と健康に寄与することに繋がると考える。

参考資料 アンケート調査票


①事前 (Pre 調査)

- ・実施時期：2021年11月15～19日
- ・対象者：小学校1～3年生の全児童113人

けんこう ようせいこうぎ じせん
キッズ健幸アンバサダー養成講座アンケート(事前)

日にち: 月 日

クラス: 年 組 名前



1. 運動や体育の時間は好きですか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. 好き	2. 少し好き	3. 少し嫌い	4. 嫌い
-------	---------	---------	-------

2. 運動することは楽しいですか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. 楽しい	2. 少し楽しい	3. あまり楽しくない	4. 楽しくない
--------	----------	-------------	----------

3. 休み時間に運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. ほとんど毎日	2. 週に2～3日くらい	3. 週に1日くらい	4. していない
-----------	--------------	------------	----------

4. 学校から家に帰ってから運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに○をつけてね)


1. ほとんど毎日	2. 週に2～3日くらい	3. 週に1日くらい	4. していない
-----------	--------------	------------	----------

5. 休みの日に運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. している	2. ほとんどしていない	3. していない
---------	--------------	----------

6. だれと一緒に運動遊びをしていますか？(あてはまる数字全部に○をつけてね)

1. おとうさん	2. おかあさん	3. きょうだい	4. おしいちゃん
5. おばあちゃん	6. ともだち	7. そのほか()	



以上で、終わります。最後までアンケートに協力してくれて、本当にありがとう！




図 22. 事前アンケート調査票

②直後（講座後調査・児童用）

- ・実施時期：2021年11月22日（KA養成講座受講直後）
- ・対象者：小学校1～3年生の全児童113人（男女）

キッズ健幸アンバサダー養成講座アンケート(直後)

クラス： 年 組 名前



1. 今日の講座はおもしろかったですか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. おもしろかった	2. 少しおもしろかった	3. あまりおもしろくなかった	4. おもしろくなかった
------------	--------------	-----------------	--------------

2. 運動は健康になるために大切だと思いましたが。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. 思った	2. 少し思った	3. あまり思わなかった	4. 思わなかった
--------	----------	--------------	-----------

3. キッズアンバサダーの役割はわかりましたか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. わかった	2. 少しわかった	3. あまりわからなかった	4. わからなかった
---------	-----------	---------------	------------

4. 速く走る秘訣はわかりましたか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. わかった	2. 少しわかった	3. あまりわからなかった	4. わからなかった
---------	-----------	---------------	------------

5. ボールをうまくつかう方法はわかりましたか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. わかった	2. 少しわかった	3. あまりわからなかった	4. わからなかった
---------	-----------	---------------	------------

6. 相手の心に火をつける話し方はわかりましたか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

※「相手の心に火をつける」とは「相手をやる気にさせること」

1. わかった	2. 少しわかった	3. あまりわからなかった	4. わからなかった
---------	-----------	---------------	------------

7. 学校の体育の時間以外に運動しようと思いませんか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. 思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 思わない
-------	---------	------------	---------

8. 今日学んだことをだれかに伝えようと思いませんか。(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. 思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 思わない
-------	---------	------------	---------

9. だれかに伝えたいことは何ですか。(あてはまる数字全てに○をつけてね)

1. 運動は健康になるために大切なこと	2. 一緒に運動をしたいこと
3. そのほか()	

以上で、終わりです。最後までアンケートに協力してくれて、本当にありがとう！

図 23. 直後アンケート調査票

③直後（講座後調査・先生用）

- ・実施時期：2021年11月22日（KA養成講座受講直後）
- ・対象者：KA養成講座に立ち会った旭小学校の教員13人（男女）

キッズ健幸アンバサダー養成講座アンケート(直後・先生用)

記入日：_____年____月____日

クラス：_____年____組 _____名前：_____

子供たちの様子についてお聞きます。（あてはまる数字1つに○）

	そう思う	やや思う	あまり 思わない	思わない
子供たちは楽しく参加できていた	4	3	2	1
子供たちは自分から進んで、参加できていた	4	3	2	1
子供たちはキッズアンバサダーの役割がよく理解できていた	4	3	2	1
子供たちは速く走る秘訣をよく理解できていた	4	3	2	1
子供たちはボールをうまく操つる方法をよく理解できていた	4	3	2	1
子供たちは相手の心に火を付ける話し方をよく理解できていた	4	3	2	1
授業で実施することはよいことだと思う	4	3	2	1

以上で、終了です。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。
※恐れ入りますが、記入漏れがないかご確認の上、提出をお願いいたします。

図 24. 直後アンケート（先生用）

④KA日記

- ・実施時期：2021年12月25日～2022年1月6日（冬休み期間中）
- ・対象者：小学校1～3年生の全児童113人

※詳細は図5を参照

⑤ 事後 (Post 調査)

- ・実施時期：2022年1月10～13日（冬休み直後）
- ・対象者：小学校1～3年生の全児童113人

けんこう ようせいこうざ じご
キッズ健幸アンバサダー養成講座アンケート(事後)

ひ につち: がつ 月 日にち 日 せいべつ 性別(〇をつけてね): おとこ 男 おんな 女

クラス: ねん 年 くみ 組 なまえ 名前



1. 運動や体育の時間は好きですか？(あてはまる数字ひとつに〇をつけてね)

1. 好き	2. 少し好き	3. 少しきらい	4. きらい
-------	---------	----------	--------

2. 運動することは楽しいですか？(あてはまる数字ひとつに〇をつけてね)

1. 楽しい	2. 少し楽しい	3. あまり楽しくない	4. 楽しくない
--------	----------	-------------	----------

3. 休み時間に運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに〇をつけてね)

1. ほとんど毎日	2. 週に2～3日くらい	3. 週に1日くらい	4. していない
-----------	--------------	------------	----------

4. 学校から家に戻ってから運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに〇をつけてね)

1. ほとんど毎日	2. 週に2～3日くらい	3. 週に1日くらい	4. していない
-----------	--------------	------------	----------

5. 休みの日に運動遊びをしていますか？(当てはまる数字ひとつに〇をつけてね)

1. している	2. ほとんどしていない	3. していない
---------	--------------	----------

6. だれと一緒に運動遊びをしていますか？(あてはまる数字全部に〇をつけてね)

1. おとうさん	2. おかあさん	3. きょうだい	4. おじいちゃん
5. おばあちゃん	6. ともだち	7. そのほか()	

7. 誰かと一緒に運動をすることはうれしいですか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. そう思う	2. 少しそう思う	3. あまり思わない	4. 思わない
---------	-----------	------------	---------

8. オリンピック選手に会って、運動を始めるきっかけになりましたか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. そう思う	2. 少しそう思う	3. あまり思わない	4. 思わない
---------	-----------	------------	---------

9. これからも運動を続けていきたいと思えますか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. そう思う	2. 少しそう思う	3. あまり思わない	4. 思わない
---------	-----------	------------	---------

10. 運動をしてくれるようになった相手は誰ですか？(あてはまる数字全部に○をつけてね)

1. おとうさん	2. おかあさん	3. きょうだい	4. おじいちゃん
5. おばあちゃん	6. ともだち	7. そのほか()	

11. 運動は健康になるために大切なことをうまく伝えられましたか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. うまくできた	2. 少しうまくできた	3. 少しむずかしかった	4. むずかしかった
-----------	-------------	--------------	------------

12. 運動の大切さを伝えるときにチラシを使いましたか？(あてはまる数字ひとつに○をつけてね)

1. つかった	2. つかわなかった
---------	------------

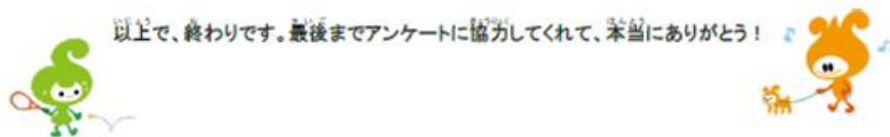


図 25. 事後アンケート (児童用)